



### 学徒動員の日々

### 第10号

# 「勉強」を奪われ働いた



動員先での作業は大人並みでした。原さんは中国配電大洲製作所(現中国電機製造、南区)で旋盤を使って鉄棒をホルルトに加工する作業をしていました。毎日午後6時から翌朝6時まで12時間の夜勤でした。

寺前さんは広島中央電話局(中区)で毎日8時間、電話の交換業務。上司が監視して、無駄話をすると厳しく叱られたそうです。小方さんは午前中、建物疎開の後片付けをし、午後は校庭でわら入形を相手に竹やり訓練をしました。農家の手伝いに行ったりしました。

そんな作業も「お国のために役に立っているんだ」(寺前さん)と考えて、あまり苦にはならなかったといいます。でも、寺前さんは「空襲警報が度々あって熟睡できなかった」、小方さんは「1カ

月に1週間分の米しか配給がなかったからいつもおなかをぺこぺこだった」と振り返ります。

勉強は学校でも自宅でも「全くできなかった」と口をそろえます。「業務の合間に自分で地名を勉強するくらいだった。勉強したかったけど時間がなかった」と寺前さん。小方さんは「明かりが漏れて敵機に見つからないよう布団に潜り、懐中電灯で本を読んだことがあると話します。「戦争に勝てば勉強できる」と信じていた。そうです。そんな時代に将来の夢はあったのでしょうか。原さんは「兵隊になんか夢だった。でも、日本は負けたらダメだ」と言います。寺前さんは「戦争に勝つために頑張らなくては」としか考えられなかったそうです。

写真は、動員された広島陸軍兵器補給廠(しょう)＝現広島市南区＝で働く学徒 (広島市文化振興課所蔵)

そして 私たちは

## 悲しみや優しい心を忘れず、平和守りたい 自由がなく、つらかった戦時中。多くのことを考えた

寺前さんは「ケキを見ると悲しくなるんです。こんなにも甘くおいしいものを一口でも、亡くなった家族や友だちに食べさせてあげたかったと思うからなんです。寺前さんの悲しみや優しい心を忘れず、今の平和を守っていきたいです。(中1川岸真織)

小方さんは、学徒動員から帰宅しても「飯がある」とは限らず、栄養失調になることもあったそうです。勉強時間もありませんでした。それでも、勝つまでは我慢していたことが、食べ物だつて十分にある今の私たちに比べても考えられませんか。(中2平田佳子)

原さんは若い世代に、今までの戦争がなく平和に生きてきた背景にたつた人々の犠牲や苦労があったことを忘れてはいけないと言われましました。戦争のない世の中を実現するため、僕たちみんなが自分のできることを考えなくてはと思いました。(中3岩田史)

戦争中は勝つことが第一だった。将来の夢など考えたことがなかった」と、小方さんは話しました。自由がな

原さんの話を聞いて、今の生活を当然のように送っている自分に気がきました。70年間戦争がなかったことに感謝しつつ、子どもたちが勉強の時間を取り上げられて働くような世の中に二度とならないよう、心掛けていこうと決意しました。(高1山田千秋)

学徒動員が決まった時、国のために働けるのがうれしかったという寺前さんの言葉に驚きました。戦地に赴く兵士の見送りや負傷兵の慰問にも行き、勉強ができます。食糧が足りないため川でシジミ採り。生活の厳しさがよく分かりました。(高2森本芽依)

私たちと同年代のごろ、小方さんたちはほとんど勉強できず、国のために夢も学校生活の思い出も捨てて働きました。進路や夢で悩む今の自分の環境が恵まれていることや、それが当たり前で与えられているのではないことを知らされました。(高2岡田春海)

### 寺前妙子さん(84)

当時15歳、進徳高等女学校(現進徳女子高) 3年

戦争に勝つことだけを信じて頑張っていました。電話局で仕事に被爆し左目が飛び出してなくなったことさえ気が付かず、川へ飛び込んで逃げました。今、平和な時代の中で、あの悲惨な時代が忘れられているような気がして、被爆体験を語る活動を続けています。(広島市安佐南区)



(撮影・高2森本芽依)

## 将来に希望はなかった。終戦と聞き、ほっとした



(撮影・高1山田千秋)

### 原政信さん(83)

当時13歳、広島市立第一工業学校(現県立広島工高) 2年

戦時中、父が病気で死んだのですが、病死したことをばかにされる異常な時代でした。もう日本は負けだと思っていたので、将来に全く希望がなかった。終戦と聞いてほっとしました。若い世代には武力のない世界になるよう、考えてほしいですね。(中区)

### 小方澄子さん(83)

当時13歳、広島女学院高等女学校(現広島女学院高) 2年

帰国した米国人の先生の持ち物を校庭で焼く様子を生徒が見せられたのを覚えています。校章まで他の金属と一緒に供出させられ、日本は勝てそうにないと思いました。でも、口には出せません。毎日、建物疎開に通いましたがいつも空腹。すごく苦しい時代でした。(廿日市市)

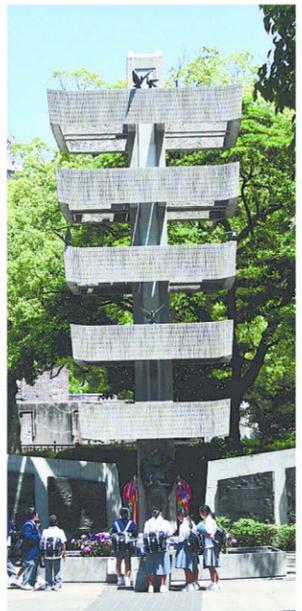


(撮影・高1小林薫)



## 被爆し7200人が死亡

広島平和記念公園(広島市中区)の一角、原爆ドームのそばに動員学徒慰霊塔があります。戦後、遺族の募金で建てられました。現在の中高生と同じ10代の人々が勤労奉仕をしていて被爆し、約200人も亡くなったのです。学徒動員は戦況が悪化した1944年、本格的になりました。授業は中止され軍需工場や建物疎開の現場、農村などさまざまな職場に動員されました。大人が次々に召集されたため、その補充要員だったので、学校が工場になったケースもあります。動員された学徒の総数は全国で340万人といわれています。(高3河野新大)



⑥多くの人が訪れる動員学徒慰霊塔(広島市中区) ⑦動員学徒慰霊塔の裏に刻まれた子どもたちの出身校名